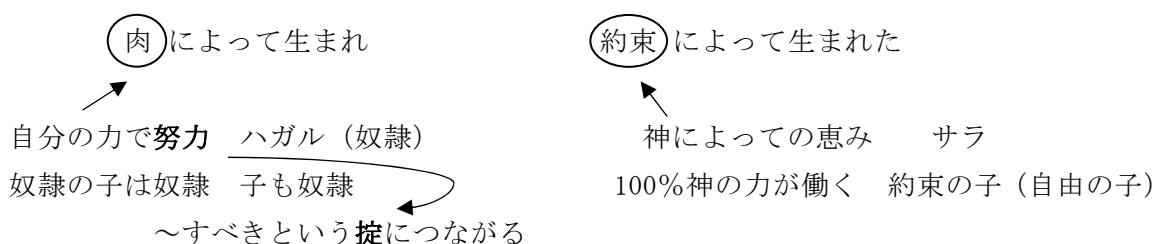


「はしためとその子を追い出せ」 ガラテヤ 4：21－5：1

「律法の下にいたいと思う人たちは、私に答えてください。あなたがたは律法の言うことを聞かないのですか。そこには、アブラハムにふたりの子があって、ひとりには女奴隷から、ひとりには自由の女から生まれた、と書かれています。女奴隷の子は肉によって生まれ、自由の女の子は約束によって生まれたのです。このことには比喻があります。この女たちは二つの契約です。一つはシナイ山から出ており、奴隷となる子を産みます。その女はハガルです。このハガルは、アラビヤにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、彼女はその子どもたちとともに奴隷だからです。しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です。すなわち、こう書いてあります。『喜べ。子を産まない不妊の女よ。声をあげて呼ばわれ。産みの苦しみを知らない女よ。夫に捨てられた女の産む子どもは、夫のある女の産む子どもよりも多い。』兄弟たちよ。あなたがたはイサクのように約束の子どもです。しかし、かつて肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりです。しかし、聖書は何と言っていますか。『奴隷の女とその子どもを追い出せ。奴隷の女の子どもは決して自由の女の子どもとともに相続人になってはならない。』こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隷の女の子どもではなく、自由の女の子どもです。キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。」(ガラテヤ 4：21－5：1)

クリスチャンとして正しいことをせよという外側の頑張り 神のためと働いて、反対に神の御名を汚すことをやめよ、と聖書は言っている。



ハガルの子もサラの子も今で言うなら

クリスチャンホームの子 押し付けない。押し付けると死んでしまう。

奴隷の子

あるがままでよい。悪いとか正しいとかではない。

父 (なる神) は、仕えてくれる者を求めているのではない。掟による

子供のように、仕える者を求めている。恵み (愛) による

サラの約束の子：

「主は、約束されたとおりに、サラを顧みて、仰せられたとおりに主はサラになさった。サラはみごもり、そして神がアブラハムに言われたその時期に、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。アブラハムは、自分に生まれた子、サラが自分に産んだ子をイサクと名づけた。」(創世記 21:1-3)

サラ — 産めなかった。人間的な努力は何もない。

「サラ言ひけるは神我を笑はしめ給ふ聞く者皆我とともに笑はん」(創世記 21:6文語訳)  
(サラは言った。『神はわたしに笑いをお与えになった。聞く者は皆、わたしと笑い(イサク)を共にしてくれるでしょう。』)(新共同訳)

サラの笑い・・・私は何もしなくてもよかったんだと、神の恵みを感じて笑った。

かつては「老いぼれてしまったこの私に、何の楽しみがあろう。それに主人も年寄りで。」(創世記 18:12) と信じれなくて笑ったのだが。

「サライはアブラムに言った。『ご存じのように、主は私が子どもを産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにおはいりください。たぶん彼女によって、私は子どもの母になれるでしょう。』アブラムはサライの言うことを聞き入れた。」(創世記 16:2) サライは当時の通念のように自分の女奴隷ハガルで子をもうけることをアブラムに進言した。

ハガルによって子を持つであろう。← 推定

子を産めないというサラの心に働いた思い。

でも、サラの子とはならない。

自由の女は産めない。 訓練によって信仰を強くされる。

奴隷の女は産めた。 → 高ぶり、誇った。サラを見下げるようになった(創世記 16:4)

肉の行ないは肉を誇る



刈り取りへ

掬か恵みか

産めないのに産まなければならない ← これは苦しみを与えるだけ

私はできます!! と自力で頑張る時、神は「では、私はあなたが何ができるのか傍観していよう」と隠れられる。